

主題：顕微鏡 歯科衛生士が後輩に伝えたいこと
副題：患者さんを笑顔でお迎えするために

吉田歯科診療室デンタルメンテナンスクリニック

歯科衛生士:和田莉那

私が顕微鏡と出会ったのは約 12 年前の歯科衛生士になって一年未満の頃、まだ衛生士業務すらきちんとできない私にとって、顕微鏡を使用するのは二の次三の次だった。

しかしようやく衛生士業務がこなせるようになってきた頃に先輩衛生士が退職し、今まで後輩のポジションで甘え続けていた自分によりやく気がついた。とにかく変わらなくてはならないと焦る自分自身を思い出す。

その解消とステップアップに顕微鏡を選んだのは極めて自然だったかもしれない。顕微鏡使用時のアシスタントワークの強化に始まり、新しいスタッフが着任した時には競うように顕微鏡の施術練習をし始めた。顕微鏡治療の大先輩の院長に使用方法を教わり、ひたすら顕微鏡を覗く日々が続いた。

肉眼ではわからなかった、発見できなかった歯石の取り残しや根面カリエス、隣接面カリエスはもちろんだが、PMTC の器具は意外に歯面に沿わせることが難しいなど、顕微鏡を使用することにより気がつくことは数多い。苦勞の甲斐あって、なんとか精度の高いメンテナンスを提供できるようになった。

すると患者さんに信頼され、後輩スタッフに刺激を与え続け、互いに勉強し成長していく過程に喜びを感じるようになってきた。顕微鏡により患者さんはもちろんスタッフ間で情報が共有できるようになり、一丸となり患者さんのサポート強化につながったと実感している。

それらの苦勞を踏まえ本講演では、当診療室で行っている後輩衛生士に向けた顕微鏡使用に伴う練習方法と患者さんの対応についてお伝えしたい。